

知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】平成26年6月18日（水）

午後1時30分～3時30分

【会場】片岡会館 大ホール

1 出席者

- ・ 発言者 吉田町において様々な分野で活躍されている方
6名（男性3名、女性3名）
- ・ 傍聴者 127人

2 発言意見

	項目	頁
発言者 1	福祉環境の充実について	3
2	アスリートクラブの活動報告	5
3	漁業の後継者不足問題と魚食の普及について	10
4	吉田町野菜の地産地消の推進について	11
5	育児と仕事の両立について	17
6	坂口谷川の築堤とリアカーの活用について	19
傍聴者 1	信号機設置の要望 富士山静岡空港の運用時間について	26
2	高等学校建設の要望	26
3	浜岡原子力発電所廃炉の要望	29
4	教育行政の展望について	29

<県知事挨拶>

皆様、こんにちは。今日は足元の悪い中、この会場いっぱいにお集まりいただきまして、誠に恐縮でございます。先ほど吉田公園の中にございます、「えんがわ」のお弁当をいただきましたが、いいですね。

まずウナギやシラス、あるいは最近はレタスやおいしいメロンもできるようになりました、食材が豊かなところだなということですね。そして今日はここに八重のヒマワリというのは、本当に珍しいものでありますが、そしてトルコキキョウですね。こうした吉田町は今やチューリップで有名でありますけれども、お花を大切にされる町民の方々と、そのシンボルが吉田公園ということでもあります。

そして町長さんは静岡県南海トラフの巨大地震で皆さんが不安に脅えている中、いわゆる陳情をするというのではなくて、自らのアイデアを出されて、歩道橋を避難タワーにするという、これを大変国の方でも珍しがられて、大臣が御視察されていると、あるいはまた吉田公園の中に命山、命山といってもきれいな丘ですね、そういうようなものを作ろうという独自の構想をされていまして、そうしたところで名物町長さんになられているということでございます。

今日この広聴会というのは広報・広聴で一体なんですね。広報というのは、こちらがどちらかというと一方的にこういうことをしておりますので皆様方よろしく御理解くださいませというのが広報です。広聴というのは聴くという、広く聴くというそういう会で、もうこれで32回になります。今回は6人の吉田町の女性、男性のリーダーの方々からそれぞれのお仕事、また抱えておられる問題、解決すべき方策等について御提言をいただいて、こちらに御報告を賜って、そして会議とするということでもあります。

私どもは今日はしっかりお聞きをいたしまして、そしてそれを必ずお返事を差し上げる、実行できるものは即実行するというこのために、きょうは真ん中に町長さん、議長先生も来ておられまして、恐縮でございます。

お聞きして、できることはもう即実行する。そしてできないことについても、しかるべく必ずお返事を差し上げるというふうにして対応するということでございますので、それからもし時間があれば、後からフロアーの方からも御意見を賜ると。ただし今日は議長先生も、町長先生も、議員先生も日頃お聞きする機会がございますので、こちらの町の方々の御意見を聞くということで、先生方は今日は静かに聞いてくださるということでございます。私もその点は安心なんですけれども、そういうことで2時間弱でございますけれど

も、よろしく願いをいたします。

< 発言者 1 >

皆様、こんにちは。私は吉田町の住吉に住んでいます発言者 1 と申します。私は静岡から吉田町に嫁いで 14 年になります。20 年ほど前から「WATABOSE」という歌のボランティアグループの一員として障害を持った方たちのメッセージを歌う、そんな活動を続けてきました。

活動の中でこれまでいろいろなところでさまざまな障害を持った方たちとか、あと御家族の方、そしてお手伝いをさせていただくボランティアの人たちからいろいろお話を聞いたりして、いろいろな体験をさせてもらいました。いろいろ地域によって、いろいろなところで伺ったんですけれども、考えていることとか、それぞれの地域の気持ちとかもいろいろあったりして、ああ、いろんな問題があるんだなというふうに思ってきました。

で、今はここ吉田町に住んでおりますので、保育園とか小学校、そういったところとか、あとチューリップ祭りなどの町のイベントなどで歌を歌わせてもらっています。そして一昨年前から吉田町の生涯学習教室の授業で「楽しく童謡を歌おう」という講座を開かせていただいて、女性を中心に毎月 2 回、25 名ほどの生徒の皆さんと一緒に童謡や唱歌を歌う、そんなことをやっています。その活動なんですけれども、最近はグループができて、片岡地区とか川尻地区、それから児童館などで一緒に童謡を歌ってくださいという声をいただきまして、童謡や唱歌を歌わせていただいています。

その活動の中なんですけれども、もちろん私も今は中学校 2 年の長男と、そして小学校 4 年の次男を持つ母親でもあります。次男は実は生まれたときにこども病院で心臓の手術をして、体は元気ではありますが、言葉もしゃべれなくて、それで日常の生活も一人でできることはあまりできません。私たちはこうやって子育てを、でもその中で地域の中で子育てをしようと思って、町立の保育園に通わせていただいて、そして今は吉田町の住吉小学校の特別支援学級に通学させてもらっています。

その中で私たちも手探りで子育てをしているんですけれども、悩んでいるときに「ぼっかぼかの会」というグループを知りました。その「ぼっかぼかの会」は吉田町に在住の障害を抱えたお子さんとその親御さんたちで構成する会で、今は 30 名ほど町内で教育委員会さんの支援を受けまして、町内の子供たちが健やかに成長できるような事業ができるよ

り、勉強会をしています。

その中で、今までは私たちもう本当に八方ふさがりで、どうやって毎日生きていこうかなというふうに考えていたんですけれども、「ぼっかぼかの会」のお母さん方といろいろ知り合うことができて、私たちだけじゃないんだということとか、あとみんなそれぞれやっぱり子育てには悩みとかを抱えて、毎日これから将来どういうふうに子供を育てていくかというのを悩んでいるのを共感しました。もちろん私たち自身、皆さんもそうだと思うんですけれども、子育てはとても大変ですけれども、大変ですが、自分の子供は本当にかわいいな、大好きだなというふうに思っています。

そして今もですけれども、私たち親が亡き後も、子供がいかに幸せな生活を送れるようにということをととても切に願っています。この町で生きていくためには、子供たちが毎日幸せな生活を送れる環境がとても必要なのではないかなというふうに思っています。つつい私たちは毎日の生活の中で、どうしても皆さん方に「すみません」とか、「お願いします」とか、「ごめんなさい」という謝った言葉を使うことが生活の中でどうしても多いんですが、それを町の中で「ありがとう」というような言葉にかえられるような、そんな生活を送れるような環境がどんどん増えてくればいいなというふうに思っています。

吉田町では今年4月から吉田町の川尻に町立の子供発達支援事業所というのができました。これは小学校へ通う前の子供たちが今30名ほど、その事業所でそれぞれの成長に合った支援をしてもらって生活していると聞いています。そして来年の4月、県立吉田高校の跡地に静岡県立吉田特別支援学校というのができまして、小学生から高校生までの子供たちが150名ほど通うような予定になっていると聞いています。

私たちにとっては、すごくこれは大きな出来事だなというふうに思います。こういうことをきっかけに吉田町が福祉に対してとか、高齢者とか、障害を持った方たちに対して、より充実した福祉の環境がこれからこのことを機会にもっともっと充実して、とても優しい町になれるんじゃないかなというふうに、そんな期待感を持っています。そして、この学校や発達支援事業所を核とした障害者などを受け入れる体制の整った文化の町に、よりなっただけいたらなというふうに願っています。

障害を持った人、持たない人関係なく、皆さんがそれぞれ手を取り合って「共生」、共に生きるような社会を身近なところでどんどん広がっていくような活動を私も続けていきたいなと思いますし、充実した毎日、それぞれの生活に負担がないような楽しい幸せな生活が送れるように、これから先どんどんなっしてほしいなというふうに私は願っています。そ

してこの吉田町をはじめ、そういった子たちを抱えるお母さんは本当に思っています。ぜひこんなことを考えて、また知事の方に素敵なアドバイスをいただけたらなというふうに思います。ありがとうございます。

< 発言者 2 >

小学生を主体とした陸上クラブ静岡吉田アスリートクラブ代表の発言者2です。今日は川勝知事とお話ができるということで、緊張しながらも楽しみにして来ました。よろしくをお願いします。

今回このような企画があるということで、町の方からお話をいただき、このような場でお話ができる人間ではないと思いつつも、今まで頑張ってくれた選手たち、現選手、そして御父兄の皆様、関係者の皆様のおかげでここに座っていますが、立たせていただいているということに感謝いたします。

静岡吉田アスリートクラブは、陸上競技の発展と選手の育成を目的として2010年11月に立ち上げ、現在4名のコーチと約60名の選手たちで活動を行っています。選手像として競技力のある選手、夢・目標を持って取り組める選手、仲間を大切にする選手、この3本柱に、現在では考え・行動・発言できる選手にと、指導に当たっています。

この3年半で一番感じていることが「考える力」です。小学生にとっては非常に難しいことですが、この「考える力」を身につけることにより、陸上選手としても、小学生としても、より大きく成長できると感じています。これを身につけるきっかけを与えてあげることが、私たち指導者としての一番大きな役割だと考えています。可能性を無限に秘めている小学生ですから、今の結果だけにとらわれることなく、3年、5年、10年と、その先で選手として、人間として花開くきっかけが、この静岡吉田アスリートクラブになればいいと思いつつも取り組んでいます。

ここからは私の希望や今直面している問題、夢などをお話しさせていただきます。今一番身近な問題です。私たちのクラブは吉田町にあります。大会は草薙競技場がメインで使われております。その中で現在工事中というところもありまして、昨年草薙競技場の駐車場が使用できません。今までは各ご家庭でお願いして競技場まで送り迎えをお願いしていましたが、駐車場が使えないということで、バスを貸し切り移動をしています。今後競技場が整備されることにより、駐車場の方も広くなると思いつつも、現状そういった形で各御家庭に御負担をお願いして、バスの貸し切り移動を行っている状態です。これが

一番身近な問題です。

その次、自分の希望です。ジュニア育成強化の充実をこれからもっとしていただきたいと思います。今の選手たちの身近な夢は2020年の夏のオリンピックです。陸上競技も年々低年齢化が進んでおり、現在の小学高学年から中学・高校あたりが2020年頃には競技力もピークになるものと思います。そんな選手たちに更なるきっかけやつながりを与えていただける場をつくっていただきたいと思います。

年齢や競技にとらわれず、小学生は中学生に、中学生は高校生に教えていただけるような場ができれば、身近な目標、そして目標とする選手がまた見付き、そこから更に選手として成長していってくれるものと思います。それが2020年東京オリンピック以降もスポーツに夢を持ち、活躍する選手が静岡から育つのではないかと考えています。

最後に私の夢ですが、この吉田町に陸上競技場をという夢があります。陸上競技だけでなくスポーツ全般、そして吉田町で近隣の周辺の皆様とスポーツを楽しめる場というのがこの地域にできたらうれしく思います。

現状のクラブの練習にいたしましても、吉田中学の第2グラウンドを主に使用し、あとは吉田町の環境、小山城であったり、砂浜であったり、そういった場を活用させていただき練習をしています。しかし、どうしても競技場練習となると焼津市の力を借りなければいけない状態です。高いお金を払って1日の練習をしています。そういったところが身近にできたら、もっと選手も、そしていろんなスポーツにも、また盛んになるのではないかなと考えております。これは自分の夢であり、そういった場所がつくっていけるほど、自分も頑張っていきたいと思っております。

最後に、今週の日曜日6月22日ですが、全国大会をかけた県予選大会が草薙競技場であります。東京オリンピックを目指している静岡県の小学生の大会です。そういった選手の頑張りをぜひ知事にも22日、時間が空いているようでしたら見ていただきたい。その辺は非常に難しいとは思いますが、翌日の新聞だけでも、結果でもいいので、ぜひ見ていただいて、また小学生が元気なところをまた知ってもらいたいなと思います。ありがとうございました。

<県知事>

発言者1さん、発言者2さん、どうもありがとうございました。お二人とも子供を元気に幸せにたくましくどう育てるかというところで共通していたんじゃないかと思いますが、

発言者1さんは「ダイちゃんあいちゃん」のテーマソングで知られている、全国区でしょうか、お姉様ということで、こういう「WATABOSE」、それからまた「ぼっかぼかの会」ですね、こういうお仲間をお持ちになっていて、本当にありがたいことだと思っております。障害のある子供たちが健常者と一緒に生活ができるようにしていくために、これはもう障害を持っていらっしゃる御家庭だけでなく、地域全体でやっていかなくちやならないということです。

昨日、桂宮様の斂葬の儀がございました。私参列いたしました。桂宮様は最後の最後まで御障害がありながら福祉のお仕事をなさいましたし、兄上でいらっしゃるヒゲの殿下で有名な寛仁殿下も声が出ないにもかかわらず、機械を使って、どこに行っても平然と同じように自分ができる最善の障害者への励ましのための提言というのをなさいまして、あるとき御礼に言上に行きましたら、通常言上のときには玄関先で参りましたということを書き記帳して帰るんですが、私の横でこうしてやる人がいるんですよ。付いてきた秘書なんです。筆で書かなくちゃいけないから、「何するんだと、いい加減にせい」と言ったら、「しっしっ」と。そこに殿下が出てきておられて、「あっ知事さん、浜松のはうまくいっているようですね」ということを言われて、本当に一言、自分の感想をせっかく来ているから言いたいということ言われて、もう感じ入ったのを覚えておりまして、行政は少なくともそういう人々の幸せのためにするのが仕事ですから、もう一躍決心した次第でございます。したがって、民間の団体の方たちも、また企業の方たちも、いろんなボランティアの方たちも、やはり一緒に組んでやっていくと。

そして御次男さん、小学校4年生だそうですね、無事に4年生まで育て、心臓の外科手術を受けられたんですね。こども病院で受けられたと。この静岡県の持っている静岡市のこども病院は県立ですが日本一です。特に心臓病の手術回数は年間二百数十回を数えていると思いますが、最高のレベルの方たちがいます。この間お生まれになったお子さんが二百数十グラム、その方も退院しました。世界トップクラスの医療技術をお持ちになっているところです。ですから助からないと思われている命も助ける。みんな一生懸命やっているんですね。

ですからその子どもがだんだん大きくなっていく。そして高校になってくるとどうするかというふうな問題が今ありますが、この吉田高校、名門高校です。ここが特別支援学校として生まれ変わるというのは、本当に吉田町らしい、吉田町にふさわしいこの吉田高校の新しい出発になるということで、発言者1さんに喜んでもらっていてうれしいです。

しかし、今度高校を卒業した後どうするかという問題があります。ですからいずれだれもが生老病死で病を得る、年をいく、そうするといってみれば健常者から見ると障害を持つ存在になっていきますので、そういう自分のこととして考えていくということが大切で、特に現在頑張っている方たちがいますね。助けることは本当に大事だと、共生という言葉を言葉で言うのは簡単ですけども、それを人が来たときにすばらしいという思いやりですね。

吉田町から花のような心のある人たちがいらっしゃるというのをぜひモデルとして、この「ぽっかぽかの会」あるいは「WATABOSE」の会、どんな子も歌える、目の見える子は絵に感動するんですね。ですから言葉が不自由だとか、いろんな不自由があっても、芸術を通して人が励まされますし、芸術を生んだりするのは人間の特権だと思います。人間だけがそれをできるんですね。そうしたものを持っているということをねむの木学園の宮城さんも話されております。ですから、歌を通して童謡、唱歌、これは詞がいいし、メロディーが優しいし、そして歌のおねえさんがいらっしゃいますし、おねえさんの仲間もたくさんいらっしゃるといことで、これが広がっていけばいいなど、それが非常にわかりやすい形での広報になるのではないかというふうに思った次第でございます。できる限りの応援をしたいと思います。

一方、発言者2さんの方は、これはエリートスポーツ選手を育てるといことで、実は小学校の学校教育の中の体育だけではできないんですね。ですからこれを4年前の秋にアスリートクラブを立ち上げていただいて大変ありがたいわけです。ですから、このクラブがあって、小学生で親御さんの御理解もあって、そこに通わせると。そして着実に60人のメンバーに育って、今発言者2さんを入れて5人でコーチとして鍛錬されていると。

ですから学校を問わないでいろんな子どもが来れる。走る、飛ぶ、こうした基本的な身体能力ですね、これをプロがきっちり鍛えるということは、算数や国語ができなくても構わぬぐらいですよ。走りで学校一になったと、あるいは県でも代表になったと、そのことだけでも、算数がちょっとできるのとどちらが偉いか、どちらも偉いですよ。ここに子どもたちの能力を、しつけをスポーツを通してできるということをやっている青年がいるというのがうれしいですよ。

小学生だけでなく中学生、高校生、ここにも広げていこうと。実際中学になりますと、野球部だとかサッカーの部活とかがありますけれども、学校の先生で適当にそれができる人がいないという場合が多いわけです。自分はサッカーでなくて、むしろバドミントンを

やりたいと、あるいはバスケットをやりたいと、あるいはまた卓球をやりたいと、適当な部活の指導をしてくださる先生がいなくなると、そういうクラブは持てないので、そうするとその子どもの本当にやりたいことができない。それが地域全体で学校を横断的にスポーツを引き受けるこういうクラブがあって、そのクラブにはいろんなスポーツのコーチをできる方がいらっしやるとなれば、もうほとんど学校と同じです。学校でできないことをしてあげる。

そしてその場合に高学年の子が低学年の子を、あるいは中学生が小学生を教えるとなれば、これはもう新しい指導者を、人を指導するというのは、その人それ自体を高めていくんですね。人を教えることを通して人は育っていきます。ですから人を育てるというのは、自らを育てることであるので、そういう経験は先生と生徒だけでやっているのと違って、先輩と後輩の間でやると。今中学に行くと中1、中2、中3で3つの違いです、せいぜい2つ違いですね。しかし小学生と中学生で、中学3年生と小学校4年生だと5つ違いますから、そうしますとその違いというのは、今はなかなか兄弟も少ない、学校以外のところで遊ぶこともなかなかままならないという中で、きっちりそれを体系的にルールを教えながら弱い者を助ける、強い者に対しては、それに対して畏敬の念を持つというふうなことをやりたいとおっしゃっている。これは非常に立派な考えで、これはもっと広めていきたいと。

私はそのために地域とともにある学校というのはどういうことができるかと。地域の学校はどうしたら育つかと。これは何も学校の教室だけでやることじゃないと。公立学校だけでやることじゃないと、全員でやろうと。これを今、日本全体もやろうとしているんです。既に吉田町には発言者2さんというこういう方たちがいらっしやるので、これを育てていきたいと申し上げておきたい。

6月22日は、残念ながら富士山の世界文化遺産登録した1周年なんですよ。ほとんど人が沼津に行っておられる。誠に申しわけない。

その駐車場も今旧体育館があるでしょう。旧体育館のところが駐車場になるはずですよ。今新体育館をつくっているんですけども、新体育館が来年の春にオープンします。4月5日だったと思いましたが、何とお相撲さんですね、「富士山場所」というのを草薙の総合体育館でやると。日馬富士だの、白鵬だの、鶴竜などが来るんですよ。縁起がいいと、富士山の麓でやるというのは。

そのときまでは旧体育館もできる限りお使いになれるようにということで、そして新体

育館ができる、そちらに競技が移りますと、体育館のところを整備して駐車場にするということなんですね。限られた空間の中で有効活用しているために、駐車場の件では御迷惑をかけていますけれども、これは永遠ではありません。来年の春までなんです。ですから貸し切りバスですか、誠に申しわけないですけれども、やがて従来のものにかわりますので、しかもいい体育館ができますから、それから6月22日は翌日の新聞で見させていただくというふうにさせていただきたいと思います。いいお話をお二人からありがとうございました。

< 発言者3 >

こんにちは。漁師の発言者3と申します。先だって仕事を終えて家にいましたら、先輩が家に見えまして、「おまえ、今度、来月の話だけんが、川勝知事が吉田町に来るだで、ちょっと顔を出してくれんか」ということで、簡単な気持ちでということ、断るのに断れない状態がありましたので、その簡単な気持ちで今ここに座っておりますこととお許しさせていただきたいと思います。そしてまたこのような貴重な時間をいただきましたこと、重ねて御礼を申し上げます。

私は高校の専攻課程を修了しまして、地元のシラスウナギに携わって40年になりますけれども、私が携わった当初から今の浜の現状を見ると、船に乗ってくれた方々がことごとくなくなったといえますか、昔は浜での生活の中で、若いときは漁業に従事していて、いつか下りてもサラリーマンを定年退職されて、地元の衆が頑張っているで、地元のシラスに世話になるかというそういう人たちがそこそこおりましたけれども、ここ10年、15年にいたっては、そういう人たちがほとんどいなくなりまして、今サラリーマンの一線を退いて、体力に多少自信があつて、海が好きだ、魚が好きだという方の力をお借りして、どうにかこうにか商売として、仕事として事業を続けているような状態であります。

私の商売は、皆さん御存じのように、3月21日に解禁を迎えまして、翌年の1月の14日に結漁ということになります。その間、シラスで市場が潤う時期は4月、5月、6月、場合によってはここ数年は本来採るべき6、7月に全くシラスが採れないという状況がままありますけれども、そして今ちょうど2カ月の春漁が終わりまして、今ちょっと底を打っておりますけれども、7月を境に「夏シラス」と称するちょっと白めのシラスが出てきて、10月ごろまでにぎやかにしていますが、どんな状態であっても、11月の半ばを過ぎると冬の海になりまして、海が涸れていく一方で、1月14日まで漁期はあっても、実質のところ

11月の半ばで漁は終わりというような、内容はそういう内容です。

そういうところからいっても、なかなか浜に目を向けてくれる方が少なくなる中で、このままでいくと淘汰されていくのも、そう時間の問題ではないと危惧しているんですけども、行政の方をお願いするようなことではないかもしれませんが、今日ここにお見えの方々の中で、一線を退いてまた体力に自信があり、海にそれこそ興味があるという御本人でも結構です、また知人の方にそういう方がおりましたら、ぜひとも力を貸していただいて、浜に足を向けていただければありがたいなと思っております。

それで魚も、それこそ私が子どものときと比べて、日常魚を食する機会が少ないように見えますが、シラスに限っては、包丁は要らない、そのまま口に入れるだけで（笑）そのまま身になるお魚の類ですので、ぜひとも子供さんを含めて、年配の方も骨粗しょう症を防ぐためにも、ぜひとも食していただいて、我々のそれこそ少しでも生活が楽になるように助けていただければありがたいなと思っております。

婦人部を通して魚食普及だの何やらということで、町のイベントを利用させてもらって、それなりに努力はしておりますけれども、なかなか今の食生活でいうと、ハンバーグやら何やらということで、本来の昔の日本食というのとはちょっと離れたところに今の食があると思っております。そういう中でもう少し地で採れた魚を、先ほどから言われております地産地消じゃないんですけれども、地の魚、地の野菜物を食していただいて、健康な体づくりと精神づくりにつなげていっていただければありがたいと思っております。

私の話といっても浜の話だけで、やや皆さんの興味の湧くような話は一切できませんので、このくらいのことで御勘弁を願いたいと思います。ありがとうございました。

< 発言者 4 >

こんにちは。吉田町の南部で農業をしています発言者4といたします。よろしくお願ひします。

「吉田町の農家の特徴は何？」ってよく他の市町の方から聞かれますけど、いつも単刀直入に、「真面目で本当に高い技術力があって、少数精鋭、人数は少ないですけども、プロ中のプロの集団だよ」って私はいつも答えます。先ほど知事にレタス、メロン、お花と紹介していただきましたが、本当に人数が少ない中でこれだけ多岐にわたって葉菜類、根菜類までつくり上げているという町は本当に珍しいんじゃないかと思ひます。

静岡のレタスは今トップブランドになりましたけど、最初の一步目は「吉田のレタス」

とラップフィルムに書いてありました。そのころから私の親の代から頑張っている作目で、他の市町の農業者から言わせると、レタスは浮遊性の病気に弱いので、こんなに長きにわたって第一線を走っている産地というのは本当に珍しいってほめてもらえます。手前みそで申しわけないですけど、私もそう思います。

レタスは品種というとなんか変に思うかもしれませんが、玉のレタスも三十数種類ぐらい品種があるんですね。その中からピンポイントで生産者は、この時期にはこれ、ここの田んぼにはこれ、同じレタスが並んでいるように思われると思うんですが、実は本当に多くの品種を選んでつくりこなしています。これは吉田町の農業者の技術力の高さ以外の何物でもないんじゃないかと自負しています。

今はトウモロコシのシーズンになりましたけど、レタスが冬の看板なら、トウモロコシは夏の看板になりつつあると思います。ここに書いてありますが、ほうせん館というのは牧之原市にあるJAの直売所ですが、私のトウモロコシを買ってくださっている方がここにおりましたら、お礼を言わせていただきます。

大きな田んぼで、西の方では1つの品種で産地化されて有名になっているところもありますが、そんなに大きくない5アールから6アールぐらいの田んぼがたくさんある吉田町で、1時期にこれだけ多くの品種のトウモロコシがあるのだから、皆さんはきっと聞いたらびっくりされちゃうんじゃないかなと思います。ゴールドラッシュ、ピクニックコーン、ミルフィーユ、あまいんです、ピュアホワイト、雪の妖精、すべてトウモロコシの品種です。ぜひ一度チャンスがあったら食べてみてください。

キセニア現象という真っ白いトウモロコシや黄色いトウモロコシは200メートルとか300メートル以内ではつukれないんですけど、それもここの技術力と言えらると思います。一度の時期に数多くのこれだけの品種を並べられるという町はそんなにはないと思います。地元の皆様が愛されてこそ、レタスもトウモロコシもほかの野菜もそうですけど、ここまでこれていると思います。今後ともよろしくお願いします。

あと特殊な野菜とか伝統野菜といわれるような、そういう野菜が吉田町はないですけど、皆さんにいつも日常に利用していただいているようなそういう野菜をつくり育てる吉田町というのは、私は農業者として本当に誇りに思います。先ほど言ったほうせん館は牧之原市にありますけど、さっき発言者3さんもおっしゃっていましたが、私もやっぱり吉田町のみんながつくってくれる本当にすばらしい野菜を吉田町で売りたいというのが私の本音です。そのためには今以上に町民の皆様にもかわいがってもらえるように日々努力して、

1日1日いいものをつくれるように励みたいと思います。

それから私農業者で女性ですから、本来だったら、ここは男性農業者の席じゃないかなと思います。今の時代といいますか、本当に追い風をいただいて、女性でもこういうところへ行ってこいよと言ってもらえるような地元の農業者の男性の声で、こうやってここへ座らせていただいていますけど、今本当に女性をいろんなところへというふうに言っています。

男性に劣っているとかって、そんなふうに思ったことは自分ではないですけど、ただ農業というのは、随分の間、男性の社会だったように思います。すごい生活レベルの話で恐縮なんですけど、部農会の回覧などもお父さんの名前で、農協の委員会もお父さんの名前でというと、情報が入るのはどうしても男性の側に早く入るのが常だと思います。TPPとか、農業改革とか、本当に厳しいというか、難しい局面に今農業が来ていると思います。女性としていろんなところへ出させてもらうには、やっぱりもっと勉強してもらわないといけないんだって、いつも思っています。

ただ生産活動だけしていても幸せな農業者としてはいけないんだなというのをよく感じますので、これは女性の側からも一生懸命勉強の場へ出るというのもそうなんですけど、行政の側からもいろんな会合で女性のみ会合があっても、ここは女性の会合だからいいんじゃないかというのではなくて、ぜひ情報を流して教えてほしいと思います。よろしくお願いします。

<県知事>

どうも発言者3さん、発言者4さん、ありがとうございました。それぞれ漁業のプロフェッショナル、農業のプロフェッショナルということで、やっぱりプロの話というのは自信にあふれていますね。ですから先生だと思えますよ。学校では教わりませんが、実社会に入って、そして漁業をする、そしてシラスを常に新鮮なものを採ったら、すぐそれを食したいと。白いごはんと一緒に食べたいとかいうふうなときに、どういうふうにしたらシラスが採れるかといったときに、どうしても発言者3さんのような方に教わらざるを得ないわけですね。農業も一緒に、ですからそういうプロの話は話だけではなくて、現場で実際に教えていただくというのが一番いいことで、これも私は学校だと思っているんですよ。

ですから、この間焼津水産高校に行ったわけですが、ここも例えば船にペンキを塗ると

というのがいかに難しいかという話を先生の方から聞きました。水が漏れ出してはいけなから、ちょっとしたことでもこれほどに大変だということで、体で覚えなくちゃいけないことを言う生徒のその目の輝きというのは大変なものであります。そして発言者3さん、きょうはシラス漁に出られる予定だったそうですよ。それをこちらに来なくちゃいけないので、漁はあきらめてこちらに来られたと。すみません。

それで、やっぱり生き物を食べるという習慣、魚食、シラスやその他海の幸をおいしくいただくというその魚食の習慣が今崩れつつあるので、これを何とか戻そうと。これは女性の力も要するというふうに思いますが、和食が世界無形文化遺産になりましたでしょう。ごはんとお汁と、それから三菜といいますか、タンパク質はお魚で、ビタミンは野菜からということになるかと思えますけれども、このタンパク質源としてのシラスというのは、本当に子供でも食せますので、骨もないので、こういう魚食文化は和食の一番の柱として、和食の一環として育てていく必要があるというふうに思っています。ですから、ぜひ今これ世界遺産なんですよ、和食が。

本県は遠州灘、あるいは駿河湾、さらに東伊豆の方は相模湾もございます。それからまた汽水域としての浜名湖のようなところもございますので、魚介類の数が大変多いです。平成23年の段階でも100です。第2位がたしか鹿児島で58だったと思えますけれども、それくらいたくさん種類の魚が採れるということは、季節ごとに違うものをいただく。今日は春漁、また夏のシラス、それから1月ぐらいになると、もう海が涸れるというきわめておもしろい表現がございましたけれども、そういう海は生きていて、そこで何が採れるか、この季節は何かということを知った上でおっしゃっていただいているわけです。

ですから、お魚を和食文化の柱をなすものとして魚食文化を育てていくというのは、世界の宝物になった富士山と同様に和食がそうなったので、これから出番が出てくると。ですから、まず食べる人が出てくると需要が多いということで供給がふえるということで、漁業の先生に学ぶそういう青年たちを増やしていきたい。

一方、発言者4さんのお話は、彼女は御案内のように、吉田町でたった一人じゃないかと思えますけれども、「ときめき女性」という女性のリーダーとしてやられているお一人であります。そして「吉田のレタス」というふうに言われました。吉田のレタスに30品種があると言われたでしょう。知らなかったです。冬はレタス、夏はトウモロコシ、ピュアホワイトとおっしゃったっけ、ピクニックコーンとか、何かきれいな横文字がいっぱい並んで、そういう品種があると。それをプロは見分けるわけですね。この八重のヒマワリなん

というのも、これ品種改良でできたに違いない。トルコキキョウもバラみたいなのもありますし、すばらしい品種を改良していきますでしょう。これの背景にあるのが何かという技術力だと。吉田の持っている農産物の品種改良し、品質を高めていく技術力というのはすごいと、プロが言っているわけです。

ですから、これを私は「農芸品」と言っているんです。農産物というには余りにも品質が高いということで農業芸術品と、それを縮めて「農芸品」。工芸品という言葉がありますでしょう。そのいろいろなものをつくる同じ手で、野菜、くだものをつくるということになります。ですからこれは「農芸品」と言ってい。吉田町の農産物はすべからく「農芸品」だということを今言われたんですよ。

だから芸術品だから値段は高い、安心、安全だ、それを何で吉田町でもっと売り買いできるようにしないのか、町長さん、こうおっしゃっているわけです。それは県と一緒にやっていくべきでしょうと、多くの人たちが行っていただくのがいいと。場所としては吉田公園の中にカフェえんがわというのがありますが、あそこで食堂もあるでしょう。ああいうところにすれば、あその全体を取り仕切っている方は、今日来られているのかしら。ともかく立派な人ですよ。そういう柔軟な方で、市のこと、県のことをお考えくださっている方ですから、そういうところと連携すれば公園の中で市が建ってもいいんじゃないですか。ですから場所はあるし、周りはきれいだし、そして料理をしたものを食べればいい。何も農産物だけじゃなくて、何で魚食も一緒に出さないのか。昨日もえんがわ弁当いただきましたけれども、ちゃんとシラスごはんでしたよ。

まず味を知る、そして味覚力を高める、そうすると味を見分ける力がつく。これは大変に重要なことで、例えばいわゆる外米が入ってくると、食べてすぐわかるわけですね。ごはんがおいしい、まずいというのはとても大事なことで、そういう味覚というのが、おいしいものをいただくという力になるわけです。ですから、それは今度それを料理するときに、その味覚を持っていると最後のところで勝つわけです。

フランスでフランス料理のシェフのコンテストがあります。なぜ日本人がトップになるんですか。それは例えば北海道のホタテしか食べなかったという本当に貧しいところで育った有名なシェフがいますよ。そのホタテというのはうま味とか、しょっぱいとか、塩辛いとか、すべての味のものが全部入っている。どなた？だれでもいい、たくさんいます。それで最後は自分の味覚で味付けをするということで勝つんですよ。

日本のものは素材を大切にしている。そして見た目でわかる。新鮮か、それともちよっ

と傷んでいるか。そして素材の新鮮さを売りにしながら、その色つやを引き立てるためにワサビとか、あるいは醤油で基本的に素材のおいしさをいただける味覚を持っている。これは和食というのは芸術です。これを育てる。この現場で育てる。そうしたものをここでつくりたい人、調理したい人、そして本当に生産物でやりたい人というのをつくっていく。そうすると地産地消で回っていきますので、こういう食材の王国ですから、これからは魚食を一緒につくっていく。

それから漁業協同組合と農協とが何で別々にやる必要があるんですか。組んでやってください。吉田町の漁協と農協は、本日をもって結婚すると宣言をしてほしい。食べる方にとっては両方ともどっちも必要なわけですから。それから売らなくちゃいけません。これは流通に乗せなくちゃいけません。だから加工して食品に仕上げるといったときに、ある種の工業的な、商業的な、そういう面が必要ですから、商業組合と農協、漁協は一緒になる。商工連合会というのがあるでしょう。農商工連合会にするべきだと。農業・商工連合会、吉田町あたりの小さいところはそれができる。もうそんな別々でやっている時代じゃないと思います。しかも、それができる素材がある。それをある小さなところでモデルで示すと、そうするともう歩道橋の避難タワーどころじゃないですよ。

ですからチューリップ祭りのときだとか、いろいろなイベントがございますね。そうしたときにきれいなところに来た、もちろん安心だと、そしておいしいものがあると、それはもうそこに農協の方も、漁協の方も、いろいろな商工会関係の方も皆一緒になって相和して和の文化、和食も和の食でしょう。和というのは足し算です。1と2の和は3といったりするじゃないですか。ですから足して調和しているということが大切で、全部組み合わせる。そうすると力が1足す1が3ぐらいになります。そういう時期を今名人、漁業の名人の発言者3さんと、農業の名人の発言者4さんの話を聞いて感想を持ちましたね。そうだなというような顔で町長さんも座っていますので、多分これ実現するんじゃないか。よろしくをお願いします。

こちらは酒はどうでしたかね。大酒飲みでございますので、一緒にいいお酒で、ですからやっぱり朝、昼、夕ご飯、これをきっちりとする。晩酌もいいでしょう。そういうことができるのが生きている幸せの1つだというふうに思いますね。それを自信を持ってやっていただき、あとは後継者と。若干の新しい組み合わせ、こうしたものをやっていくと倍する力が出てくるんじゃないかなという感想を持った次第であります。以上であります。

< 発言者 5 >

皆様、こんにちは。株式会社ガンボスプの発言者 5 です。よろしくお願いします。

私には中学 1 年生の娘と小学校 5 年生の息子がいます。私たちの会社は吉田町住吉に会社を置き、牧之原市細江で子供服を中心としたお店ハニードロップをしています。ハニードロップは 2000 年、当時私は 24 歳だったんですけれども、ほんの 1 滴、ドロップですね、の幸せ、ハニーをプレゼントしたいと思いオープンしたお店です。いつの日からか、お店に来る子供たちが「ハニドロ」「ハニドロ」と呼ぶようになりました。御来店いただくお客様は地元の方を初め、静岡市内、浜松市内からも御来店いただいております。

お店のコンセプトは思い出づくりのお手伝いです。子供たちにかわいいお洋服を着ていただいたり、クリスマス会をしたり、フリーマーケットなど、お子様のアルバムの 1 ページが華やかになるような企画もしています。

現在 5 人のスタッフとお店を切り盛りしていますが、うち 2 名は育休中です。ですがお店が忙しくなると子供をおんぶしてお手伝いに来てくれています。ハニドロは子供が好き、服が好き、人が好きというスタッフが集まってくるお店です。多くのスタッフが結婚して、出産、そしてお客様としてお店に戻ってきてくれるという流れができています。

私は高校卒業後、バスガイドを経て、京都のブティックに就職しました。子供服から男性のスーツなど、さまざまな店舗でお洋服の勉強をさせていただいておりましたが、やっぱり地元が好きの思いから、こちらでお店をオープンしました。

子供は好きでしたが子供がいませんでした。なので子供が集まるお店をつくりたいの思いから子供服屋さんをオープンしました。子供はいなかったんですが、オープンしてから 3 カ月で妊娠が発覚。予定日を過ぎてもなかなか生まれてきてくれませんでした。100 cm のお腹になった私なんですけれども、それでもお客様がお洋服を楽しみにしてくださっていると、100 cm のお腹を抱えて東京出張にも出かけました。ただ心配性の父は、背広を着て一緒についてきてしまいました。

2000 年に長女を出産、2 カ月ほどでお店に復帰しました。おっばいはお店であげ、おんぶして、母とお店を切り盛りしました。同じくらいの子供を持つお母さんたちと育児の話をたくさん楽しく話すことが多かったのですが、お客様とのお話は楽しい話ばかりではなく、悩み、相談も受けるようになりました。自分自身も仕事と育児の両立について深く悩んだ時期もありました。お客様のお話を悩みや愚痴で終わりにしないで、ヒントも一緒に見つけることができたらいいなという思いから心理学の資格を取り、よろず相談を含めた

心の通い合う接客を心がけております。

お客様とのお話の中には、育児が一段落すると、お子様を保育園に預け、お仕事を探すママも多いように感じます。その中で保育園に入りにくい、面接に行っても、「子供が熱が出たらどうするんですか」という質問をされた。そんな中から働くことをあきらめたママもいらっしゃいます。お仕事を始めた後も仕事と育児の両立の悩みを抱えているママも多いです。

そんな中、私たち女性がしている子供服屋ハニドロができることがないかと探してみました。おうちでできる仕事だったらママたちもお仕事ができるんじゃないかと思い、ハニドロチクチク隊という名前でチクチク隊というのを結成しました。私たちが子供のころ、私たちが寝た後にお母さんがお洋服のボタンをつけてくれたり、穴の開いた靴下をちくちく縫ってくれたように、子供が寝た後の自分の時間を使ってハニドロオリジナル商品を今ママたちにつくっていただいています。その代表商品がこのバンドです。

お母さんになると美容院に行くのも、子供をどこに預けようか、だれに預けようか、2時間ぐらいだったら留守をしてもいいかなど、自分の時間をつくるのがすごく大変です。朝、髪の毛をセットする時間もなかなかありません。なので、このバンドは髪を1つに縛ってぎゅっと鉢巻きのように巻くだけでかわいくなるという商品です。それから暑くなるこれからの季節、お客様の声を形にした離乳食やお弁当を入れる保冷バッグなども製作しております。

現在企画段階ですが、小さくなった子供服を何か形にできないかという思いから、この小さくなったお洋服をワンちゃんのお洋服にしていこうという活動もしています。これが吉田初のブランドになればいいなという思いで、お母さんたちと一丸になって頑張ってお活動しております。

お店のことばかりになってしまいましたが、私も一応お母さんです。現在、ハニードロップと去年御縁から譲り受けた静波にあるダチョウ牧場の中のカフェを切り盛りしているため、私には子供と向き合う時間がほとんどありません。ですが、その中で育児に心がけていることは、年に数回あるお弁当は子供たちの大好きなものをすべて手作りでつくっているということです。また7年間続けている小学校での日活をすることで、学校での子供たちの過ごし方、お友達の関わり方を目で見て感じるということを心がけています。私の場合、家族だけの協力ではなく、友達やスタッフ、お客様にも育児のお手伝いをしてもらっているため、この環境を維持できているんだと思っています。

現在、吉田町商工会青年部に所属させていただいております。部員は現在 53 名、そのうち私ともう 1 人だけ女性になります。その中で私は研修・講習の部門に所属させていただいております。去年の主な活動としては、各種イベントでの「吉田まき」の販売、「吉田まき」オリジナルレシピコンテストの実施、カップリングパーティーの開催などです。ことしに入っては、「絆感謝運動」として 6 月 10 日に清掃活動をしました。青年部は青年部同士のつながり、地域発展に寄与する活動をしています。この中で私は女性としてできることを探し、実行していこうと思っています。

14 年間お店をやっていて、地震の後、何となくこの町から人が離れているように感じることがあります。なので私たちは海岸地区を元気にしたい、そんな思いから去年ノット・トゥー・ノットというイベントを開催しました。人と人、人と地域、地域と地域をつなぐことを目的としたイベントは、商工会の仲間や同級生、地元の企業さんの協力もあり、たくさんのお客様がここ榛南地区に足を運んでくださいました。このイベントによって、企業による子供たちの出番づくり、そんなものをつくることができたんじゃないかなと思っています。そして同時にお店では経験できないことをしたことにより、スタッフ自身の教育訓練の場としても機能できたんじゃないかなと思っています。この活動は今年はお休みしますが、今後も続けていきたいと思っています。

女性、母親で、そんな私たちが働くということは、周囲の理解と協力があるからこそできていることだと思っています。今後もたくさんママが楽しく元気に過ごしていただけるように、私はこの町でお店づくりと地域活動をしていきたいと思っています。ありがとうございました。

< 発言者 6 >

住吉地区の自主防災委員をやっております発言者 6 と申します。初めに川勝知事、並びに事業を進めてこられました職員の方々に御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

それでは私は防災の立場から少し話をさせていただきたいと思います。吉田町は津波避難タワーが完成しましたので、まずは一安心したところだと思いますが、まだまだ課題もたくさんあります。その中から何点か話してみたいと思います。坂口谷川がありまして、榛原と吉田の境にある川ですが、河口には水門はありません。また川の両端の堤防が未整備の状態なので、特に吉田側の川は堤防が全くなく、土手は水面より 1 メートル程度しか

なく、それが少し下がって 300 メートルほどあります。津波が発生すれば、まずここから上がってきて、民家を襲ってきます。

また十石橋と井上橋の間、ここは川が急カーブしています。吉田側は南側になるんですが、民家の方は川の水面より低く、南海トラフで想定される巨大地震が発生した場合には、川の堤防が亀裂及び決壊する恐れがあります。仮に巨大地震により堤防が決壊した場合には、水が流れ出し、海側の防波堤がせき止め役となり、川の水がどんどん溜まってきます。津波避難タワーへ避難しようとしても歩けなくなってしまいます。

このような惨事にならないように調査を依頼しようと思っていたのですが、最近情報が入り、榛原側と吉田側双方より 4 名ずつの選出をし、平成 24 年 10 月に調査委員会が発足したようです。現在も調査中とのことで、結果は今年度中には出るとのことなので、結果を待ちたいと思っております。

これは余談なんですけど、既に御承知の方もおられると思いますが、静岡市を流れている安倍川は人工川です。藁科川と安倍川が合流している箇所がありますが、そこから少し南へ下がったところから川は大きく曲がり、駿府城の南側を通り、大谷水路を通って久能街道の手前へ流れていました。川が大きく曲がっているところの堤防がときどき決壊をし、水害が起きたそうです。徳川家康が諸国の大名に命じて、大きく曲がっているところから南の方へ幅広くつくったのが今日の安倍川です。

坂口谷川も大きく曲がっているところから真っ直ぐに海側、南側へ流れをつくれればよいと思いますが、民家が立ち並んで不可能な話です。現在の川を巨大地震に耐えられるように補強していただきたいと思っております。

次に巨大地震が起き、大津波が発生した場合には、普通の人たちは歩いて避難すると思いますが、足の不自由なお年寄り、並びに車椅子生活者の方々は避難できません。そこで避難搬送方法として、折りたたみ式のリアカーに乗せて避難する。品物は軽くコンパクトにできているため、折りたたんで玄関の横に置いておき、巨大地震が起き、大津波が発生したとの報道を受け、組み立てて荷台に載せ、避難地へ避難します。リアカーを組み立てる場合は、最初は 3、4 分かかりますが、1 度覚えてしまえば 1 分以内で組み立てることができます。

またリアカーは足の不自由な方の家に置き、これを組単位で管理をし、組の会合を活用して、日ごろから避難の方法を話し合い、決めておくとういと思っています。リアカーをたたんだときの寸法なんですけど、立てておいた状態、長さが 129 cm、高さが 73 cm、幅 31 cm で

す。価格が7万5,000円ほどするために、個人ではなかなか購入することができません。例えば各町内会が予算を組んで年に1台程度の購入をし、足の不自由な方々へ組長を通して借用品として貸していく。また、国や県がリアカーを購入した町内会、防災費の補助金として出すシステムはないものか。ここらあたりはお話してください。

足の不自由な方々へリアカーを貸し出すことにより、訓練にも参加するようになり、地域の輪の中へ入ることにより、生きる希望も湧いてまいります。実は私も訓練で使ったのですが、ごととしますが、安定していて安全に足の不自由な方を搬送することができます。以上です。

<県知事>

どうも発言者5さん、発言者6さん、ありがとうございました。

まずハニードロップという幸せのハニー、これを1滴、子供たちの洋服を通じて差し上げたいという、その思いがいいですね。それで、なかなか子供が好きなのにもかかわらず恵まれなくて、その店を構えようとして、その矢先にお子様にも恵まれたと。非常な試練で、これをやられて100cmになられたわけです。

お子様が生まれて2カ月してすぐに仕事を始めた。おっばいをお店で、そしてまたおんぶして、今5人のスタッフがいて、2人が育休だと、しかし忙しいときにはおんぶしてお店に来てくれて助けてくれる。そして、ただお店のスタッフだけでなく、最後の方でお客様も子供をあやしてくれたりしてくださるということでしょう。僕はこれが一番自然だと。

そもそもお子様を保育園なり、育児所に預けて仕事場に出るというのは、もう保育園に預けたい、そして待機児童をゼロにしたい。待機しているのはだれかという、何となくこの待機児童と言うときには、保育所が空くのをお母様が待機しているという感じですけど、待っているのは子供ですね。お父さん、お母さんが自分を迎えに来てくれるのを待っているわけです。まさに待機している児童がその保育園にいるということなんですから、ですから待機しなくていいためには、おんぶして仕事場に行けばいい。ですからそこで赤ちゃんが泣くのは当たり前ですから、みんなであやせばいいということですよ。ですから私は私の職場ですね、県庁にお子様が生まれたら抱いて持っていらっしやいと。どこが悪いんですか。

かつて皆そうしていたじゃないですか。何となく子供とお父さん、お母さんを引き離し

て、保育所に預けること自体が子供にためになる、親のためになるという見方、考え方それ自体がおかしい。だから子供が小さいときには泣くのが当たり前で、そしてお母さんのそばにいとそれなりの処置の仕方だとか、そしてまたお母さん経験者だとか、これからお母さんになる子だとか、女の子だとか男の子だとか、小さな子供と仕事場で接して、ぎゃあぎゃあ泣いて、それは元気でいいねということで済ませばそれでいいと、こう思うわけですよ。ですから私は待機児童ゼロの考え方も、基本的に子供中心に考えていくべきだという考えです。

それから子供は大きくなりますね。そうすると子供にかわいい洋服を着せたいと。それを写真に撮ったりしておく、やがて今中1のお嬢さん、こんなにかわいい、これはお母さんが私のためにつくってくれたということで思い出になるし、私はそういうお母さんが愛情を持ってつくってくださったり、あるいは買ってくださったものというのは、その子のおしゃれ感覚、特に女の子の場合にはおしゃれ感覚をつくるんじゃないというふうに思うんですよ。

そういう意味で、子供にかわいい洋服を着せたいと。ところが子供が大きくなって洋服が要らなくなると、どうするかといったときにそれを活用して、こういうかわいいバンドができた。そしてもう少し考えて、これをワンちゃんのペット服にできるんじゃないか、これもすごい立派なアイデアですね。もともと人間様がお持ちになられていた、しかも愛情を持ってつくった色とりどりのものでしょう。それを自分のペットに、ペットはそんなにいきなり大きくなりませんので、それぞれの大きさのものを買えばいいというのもすばらしい考えだと思うんですよ。

本当にしっかりされていて、そしてさすが吉田町だと。その吉田町の青年会50人のうち、たった2人の女性だと。いや、だから2人で50人、1人で25人相手にできるというそういうたくましい女性であるということですね。ただもう少し女性の青年会の会員が増えた方がいいな。半々ぐらいになればいいなと。

そして実は今こういう発言者5さんみたいなたくましい女性がいる結果、この吉田町の合計特殊出生率、要するに女性が一生の間に何人お子さんを産むかということで、日本全体では1.4人ぐらいです。静岡県では1.5人ぐらいなんですよ。ところが5年前は吉田町は1.6人だったんです。日本の平均よりも高い、静岡県の平均よりも高い。ところがこのたび国勢調査の結果出てきたのは1.73ですよ。前回静岡県で一番高かったのは長泉町というところですよ。1.70だったんですよ。それを超えてしまったんです。すごいところですね。

何とかこれを 2.0 まで持っていきたい。もう上が見えてきましたね。八合目か九合目ぐら
いまできていますよ、もう一息ということ。

ですから発言者 5 さん流のやり方でいくと、吉田町が静岡県で最初に 2.0 を達成できる。
そしてお子様はみんな育てる、お客様もスタッフもみんな育てる、こういうふうにし
て、子供が仕事場、生活の場にいるというのが当たり前にする。離すというのがやっぱり
これは不自然だと。何となく保育園をどんどんつくれというそれが何となく正しい要求み
たいですけども、そうではなくて、お子様がお母さんのところにいるということが一番。
ただ交通の面で遠くに行かなくちゃいけないとか、やむを得ず子供にそういう電車通勤の
中に持っていくというのは大変だということの場合もあるでしょう。だけど基本的な考え
方としてはそういう子供と一緒に仕事があるというのが当たり前だと。

それから偉いと思ったのは、心理学ですか、心理士ですか。（「心理学です」）心理学の資
格を取ったとおっしゃったでしょう。この忙しいのに資格を取られているんですよ。この
資格というのは、これはいわば免許証みたいなものですから、この資格があればこういう
仕事ができるということですから、ですから子育てが終わられた後は、そういう面での仕
事ができるわけですね。

子育てというのは、保育ママだとか保育士だとか、最近は中央政府が保育指導員とかと
言っているようですが、そういう資格を差し上げてくれとっているわけです。子育てし
ているということは実践ですから、実践しているお母さん方は、一番保育士だとか保育指
導員だとか保育ママという資格を取りやすいですよ。学校に行って保育士の資格を取りた
いと。それで大学に行ってそういう本を読んだり、現場に出て子供のお世話をしたり、子
供の世話は自分の子供を世話すればいいんですから、そのときに一番必要な知識というの
は一番身につきますから、それですから私は保育園にもし行くなら、保育園に行くこと自
体が学校だと。だってそこには保育士もいらっしゃるし、先輩のお母さんもいるというふ
うにすれば、いろいろと友達もできるし、いろいろと自分の子供が静かに寝ていれば、む
ずかっている子がいればそれを助ける。力がついていくので、それ自体が保育士になる資
格をそこでつくっている。

だからむしろそれを目標にしようということで、去年藤枝市と富士市でやったら、本当
に保育士になったお母さんが出てこられて、今度国が真似をして、静岡県にならえとい
うので厚生労働省が 4,000 万円ぽんとくれたんですよ。これをもっと進めてくれと。今年
は全県下でやっているわけです。ただし、それはお金の問題でなくて、実際はそういう子育

でそれ自体が大切な仕事だと。自分が成長し、社会的に認められる資格が持てるというふうにしていけば、何か仕事と育児を両立するんじゃないかと、育児は仕事を獲得していく道だと。ですから子育てはとっても大切な仕事だと。私は子育ては幾つもの仕事の中で最も尊い仕事だと思う。

先ほどスポーツのプロが小学校をやるとおっしゃったでしょう。漁業だとか農業だとか、これはある程度高校生とかやっていないとちやいけませんけど、一番大切なのは生まれた後、どういうふうにして育てていくか、ここが人材育成の一番の原点だと思うんですね。そうしたときに、周りにお母さん経験者だとか、あるいはそういう資格を持った人がいるということはずごく大切で、それを自分のものにしていくということによって力をつけていく。これは仕事になるということで、そういうモデルケースになると思うので、ぜひ発言者5さんのこういう運動と申しますか、志を吉田町の青年会で男の子たちにも広めていただいて、私を見習いなさいというふうにやってください。そしてこの次にお目にかかったときは、そうですね、せめてあなたの会社のスタッフが5人でしょう。5人ぐらい、青年会に女の子が入るように報告を聞きたいと思います。

発言者6さんは防災先進町としての自主防災のリーダーとして極めて具体的に言っていたいただきましてありがとうございます。坂口谷川はおっしゃるとおりなんですよ。ですから、吉田町というのは全体に低いので、しかもそういう部分が圧倒的ですよ、8割9割を占めているということなので、防災についての意識が極めて高いということですね。

その坂口谷川をどうするかということで、安倍川の例を出されました。あのときは諸国の大名と言われましたけれども、実際は薩摩藩がやったんですよ、薩摩の武士に対して安倍川の付け替えとか、土手をつくらせる。今「薩摩土手」としてまだ残っています。木曾川のあれは有名で、最後はそれをした人は余りに多くの方が死んだんですよ、薩摩武士。平田鞞負という人は、最後は切腹しましたよ、余りのつらさに。徳川が命じてやったわけですが、今私どもはそういう諸国の大名がいないわけですから、どうしたらいいかということで、国とか県とか市が一緒になってやらざるを得ないということでもあります。

それどうしたらいいかということで、坂口谷川の上流 4.8 キロ行ったところから1点数キロのあたり、2.8キロのところを、ともかく川を掘削して築堤をしていこうということですよ。水門については、平成25年度はたしか私の記憶では2,000万円を予算計上して、ことはそれじゃ足りないということで7,000万円多くしております。最終的には国からもいただいて40億程度、それなりの予算をつけまして順次築堤をして安全にしていくというの

ですが、川の付け替えまでちょっと考えていなかったもので、初めて聞きましたので、それは検討しなくちゃなりません。場合によっては人に立ち退いていただかなくちゃいけないということがありますので、それは昔のようにはいきません。

それからこのリアカーですね。これをじゃあ折りたたんでみてくださいますか。たたんでみてください。

2分30秒です。初心者にとっては2、3人がかりでそのぐらいかかると。これをまた組み立てると大体そのぐらいの時間がかかる。ややもう少しかなという感じがありましたね。もう少し簡単にバババツとやれば、ワアーというところだったんですけど。それでも3分弱で折りたためるということですね。恐らくこのぐらいの時間で組み立てることができるということで、これ自体は非常にいいアイデアじゃないか。ともかく障害のある方を引っ張っていく。

これをどうしたら普及できるかということですがけれども、これは組み立てて、このままで、そして吉田公園あたりで命山に向かってばあっと競争する。吉田町の議長先生、町長先生、議員先生を、大体同じぐらいの体重ですから、乗せて運ぶというふうなそういう競争をして、それで1等賞にはこういうお花を差し上げるとか、そういうふうにしてやっばり日頃使わないとなかなかにと思います。

ですから普段置いておいて組み立ててといっても、やっぱりそれぞれもあわてているときですから、なかなかできないということで、その昔北海道の方にばんぼという大きな大きな馬がいて、それは役割が終わったわけですね。今は競争しているでしょう、競馬をやっているわけですよ。ものすごく重たい荷物を運ばせる競争ですがけれども、普通の馬の2倍ぐらいある大きな馬で、これはリアカーなので人を運ぶ、あるいは人を乗せて競争するというのを名物にすると、「これ何のためにやっているんですか」と、「これは実は人助の練習をしているんだ」ということになりますでしょう。

ですからこれいろいろと活用法を考えると。そして優勝した町内には1台余計に差し上げるとかいうふうにして、そしてその中でなるべく改良をしていきながらとか、もう少し簡単に組み立てるとか、今実は車椅子ですね。車椅子というのは15キロから20キロぐらいするでしょう、重さが。それを人が乗られてそれを運ぶとなると、その重量で車に乗せしたり下ろしたりしなくちゃなりません。今車椅子が5キロでできるやつができていますよ。これ浜松で発明した、世界最軽量の車椅子なんですけれども、もう5キロぐらいですと、ちょっとした重たいカバンぐらいなもんですよ。そういうのもあります。

ですからこういう器具ですね、これは改良をしていく、アイデアがいいと思いますよ。リアカーだと自分のあれで引っ張っていけるし、場合によっては2人で引っ張ることもできるでしょう。いいアイデアなので、これを普及する方法を自主防災の方でのいろいろ御提案をいただきながらやっていければおもしろいのではないかと。さすが防災先進町の御提案だと思った次第でございます。以上でございます。

<傍聴者1>

吉田町片岡の傍聴者1と申します。78歳です。2点ほど、ちょうどいい機会なので知事さんをお願いしたいことがございます。まずその第1は、吉田町で今幹線道路が2本開通しようとしておりますが、信号の数が非常に少なく大変危険だということで、今在来の国道にある信号機を外して通学路へ回してくれという話も出ておまして、引っ張り合いで、どっちかという町内のもめ事のような感じになっているわけですが、非常にこの幹線道路の開通にあわせて予算化できるように、県の行政組織の中で縦割りを廃して、中の疎通をよくして、道路が開通するときは必要な信号機の予算が付くようにお考えいただきたい、これが1点です。

それからもう1点、最近新聞記事によりますと静岡空港の運用時間、今までは8時半まで、これを延長するということが新聞紙上から伺っておりますが、これにつきましても、当時この町内から非常に強い騒音等に、生活環境に対する心配から、強烈な反対運動が起きまして、県の職員の方もたびたびこちらへ見えて、この会場でも説明会を開いて、夜遅くには飛ばさないとか、あるいは静岡空港は全然欠陥がないから大丈夫だとか、そういうような話も伺っていますが、5年たって簡単にまた協定を変えようというようなことを軽々しくやりますと、最近では国の行政においても、憲法の解釈まで簡単に変わってしまうような時勢ですけど、余りこういう協定を変えることをやり出すと、県政に対する信頼が失われていきますので、ぜひこれを考えていただきたい。以上の2点です。

<傍聴者2>

片岡の傍聴者2です。よろしく申し上げます。1つお願いがあります。吉田高校が本年4月から大井川高校と統合され、清流館高校になりましたが、吉田中学校は県下1のマンモス校でもあり、先ほどお話に出たように、トータル的なスポーツ文化の発展のための高等学校を建設していただきたいというのが切望でございます。以上でございます。

<県知事>

それぞれ貴重な御提言というか御意見をいただきましてありがとうございました。傍聴者1さん、喜寿を元気に迎えられ、ことしは78歳ということで、誠にかくしゃくとされているのは本県の誇りの1つでございます。健康寿命を今までのように延ばしてくださいませ。

そしてまず子供たちの通学路、ここに今幹線道路が開通したら危険だということになって、これはすぐに調べてどうすればいいかというのを調べるようにいたします。そして基本的には危なくないように信号機を設置するということには設置するというふうにいたします。

それから第2の空港の問題ですね。8時半までということですが、5年間やってみてどうでした？やかましいですか、やっぱり。

<傍聴者1>

気にすれば気になりますが、神経の受け止め方だと思います。やはり小さな子供の寝る時間の8時半で、8時半以後というところとちょっと。

<県知事>

ともかくこれは四六時中通っているものでもないもので、これまで5年間の経験を踏まえて、私も実は食事しているときに話題になったんですよ。それほど気にならないという御意見もお聞きしましたので、それともう1つ大事なことは、ついこの月曜日ですけれども、自衛隊と米軍と海上保安庁、それから警察・消防で空港で指揮官会議というのをしました。いざという時に本当に手助けになるかという話です。

そのときに話題になったのは、例えば夜中に、午前2時でも3時でも、そのときに発災したとする。そのときにすぐに助けに行かなくちゃいけません。そうするとここの空港に自衛隊のヘリが来る、あるいはどこかから飛行機が飛来すると。それがいいかどうかというときに、空港には何人いるか、その時間に。そんなこと考えなかったんですよ。それからその飛来に対して受け入れはどうだということで、私は当然発災した、空港が拠点にならざるを得ませんので、すぐにどんな形でもしかるべき人が駆けつけられるか。駆けつける方法は、恐らく自転車だとかそういう方法しかないと思いますが、そして自衛隊のヘリ

を、あるいは海上保安庁の例えばヘリを断ることはできないでしょう。それはこの人たちを助けるために来るんですから。

そのときに8時半までだから、今は翌日の何時になるまでは飛来しちゃいけないと言うと、それはもう本当に非人道的な主張になります。ですから非常時においてはどうするかということをお話したことがなかったんですね。ですからこの指揮官会議でその問題を提起したのは、東日本大震災で陸自・空自・海自、陸海空の自衛隊、合計20万のうち半分の人たちが、10万人があそこで救済・救援活動に走りました。そして救援作戦をした人、元陸幕長ですね、今うちの危機管理担当の補佐官です。彼が発言したんです。1時半に発災したときにどうするんですかと。だれが駆けつけてくれるか。そしてヘリコプターを受け入れるかどうか、それは受け入れるという方向に考えざるを得ません。人を助けるためですから。

だからちょっとそういう話もあって、吉田町、この問題ですっていろいろな経緯もあります。そして特に町長さんは、そういう人助けの自衛隊を経験されていますので、新しい視点で今空港を開港した5年までの6月と、それから2年後に発災を東日本であって、それからまたその直後に静岡県だけで10万5,000人、日本全体で32万人が何もしなければ被災するというような中で、今我々はものすごい前倒しの防災対策をやっているわけです。そうした新しい事態が生じてますので、ぜひ地元の方と懇談といえますか、意見交換の場を持ちたいというふうに思っているところです。ぜひ傍聴者1さんもそこで御意見を言ってくださいませ。

さて傍聴者2さん、吉田中学がマンモスになっていると、何クラスあるんですか。

<傍聴者2>

全部で900名ぐらいなんです。

<県知事>

900名。私が学生のときには中学でクラスが17クラスあって、1学年で900人。今900人はなかなか大きい。にぎやかで結構ですが、さてそれをどうするかということをお話、私ちょっと今問題を初めて聞きましたので、その中学生たちがきちっといい高校に行けるように、ふさわしい高校に、私初めて聞きましたので即答できなくて申しわけありませんが、マンモス中学ということで、それをもって教育委員会とも御相談申し上げた上でしかでき

ないので。子供のために何ができるかという観点で皆で一緒に考えるという時代になっています。ですから教育委員会の、特に事務局の先生中心主義の全員が先生という形でやっ
ていこうと思っていますので、そのつもりで頑張ります。

<傍聴者3>

住吉の傍聴者3です。きょうはパネラーの皆さん、各分野のこれから吉田町を引っ張る皆さんの貴重なお話をいただきましてありがとうございました。

私は浜岡原発の件について、知事にぜひお願いをしたいと思います。御承知のように、東海地震の震源域の真上ということで、地震が起こったら何が起こるかわからないという浜岡原発、世界で一番危険だと言われてはいますが、地震だけでなく、人為的な操作ミス、あるいは人為的な破壊行為、それから事故等、いろんな事故の発生の可能性があるというふうに言われています。

福島の事故以来、私たち吉田町の中でも浜岡原発を何とかしてほしいという声がたくさんありまして、町議会にもお願いをしまして、議会でも廃炉という決議、意見書を採択していただきましたし、田村町長も浜岡原発は廃炉というふうなことで発言をされています。これは吉田町の町民みんなの声じゃないかなと思っています。きょう発言された皆さん、吉田町はこれからもっとますます発展させるということの中で、浜岡原発がもし何かあったら、住民も山も畑も漁業もみんな大きな被害を受けて、この地に住めなくなるというようなことにならないように、ぜひ知事の力で浜岡の原発再稼働をせずに、このまま廃炉にしてくださいという決断をぜひお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

<傍聴者4>

住吉に住んでおります傍聴者4と申します。今日は知事に教育行政についてちょっとだけお尋ねさせていただきたいんですが、激務の中、こうした機会をつくってくださったこと、本当にありがとうございます。また提言してくださった方々、とても勉強になりました。ありがとうございました。教育行政についてですけども、今日改めて本当に知事はロマンチストだなということがよくわかりましたし、それが川勝県政の支えの一番の根幹になっているのかなというふうに思いました。

ただ、そうした中で今日の御発言の中で気になることが1つ、教育行政について、今後どんなふうに見通しを立てていらっしゃるのか、お差し支えのない範囲で伺えればありが

たいなと思います。

<県知事>

最後のお2人、それぞれ大事な点を御指摘いただきましてありがとうございました。

まず浜岡原子力発電所ですけれども、廃炉にしても危ないですね。永久停止にしても危ないでしょう。ですから廃炉の技術を上げないといけません。廃炉の技術というのは、まだあるようでないわけです。いきなり福島第1原発でメルトダウンしましたから、これをどのようにして廃炉にするかというのは、もう人類史上画期的な技術というのがない限り難しいということであります。そういう問題を初めて日本人は突きつけられたというそういう認識を持っています。

それで私は廃炉にするには、現場で勉強する以外にないということで、皆様御存知だと思いますけれども、静岡県にはオープンな浜岡原子力発電所に関わる原子力安全防災学会議、5つの分科会がありまして、全部オープンにして、マスコミにも、議論しております。

そうした中で、浜岡原子力発電所に研究所をつくってくれと研究所をつくりました。そしていろんな研究を公募してもらいたい。安全であるためにいろいろ研究しなくちゃならんと。そんなものだれも応募してくれないと。83件の応募がありまして、そこから10件選んで1,000万研究費出された。1,000万はゼロが大分少ないと私言ったんですよ、3,000億かけて防潮堤つくっているわけでしょう。

そして所長に言いました。今度代わられましたけれども、3,000億かけてどれくらいの新しい安全技術、つまり商品になるような技術をつくられましたかと。そんなこと考えてもみなかったと。3,000億をただただ従来の技術で出ただけだったら、何も人の役に立たないということで、今攻めの安全技術という、つまり商品になる、ほかのところで使えるというそういうものをお考えいただいている。

この間、2年目は1億円の研究費を出している。その中には廃炉の技術が入っています。あるいは放射能の半減期を早めるというそういう研究もなされております。つまり安全を高めるために、廃炉にするにしろ、永久停止にするにしろ、これを安全にする方法がないと安全じゃないわけです。

そこで一番私が気にしているのは、そこで働いている人たちのことです。一番そこで被害を被るわけですから、その人たちも家族がいますから、今4,000人ぐらい働いているで

しょう。1世帯3人の家族とすると1万人近い人たちがあそこで生活されているわけです。ですからその人たちが自分の家族のつもりでどうしたら安全にいけるかということで、中部電力と全部オープンにして、言ったことは全部聞く、答えるという形でやっておりますので、廃炉にしたから安全だということじゃないので、その技術を高めているということです。

今おっしゃったように、世界で一番危険なところでつくられた技術は、最も高い技術になりますから、ですからそういう方向でやる以外に方法がないんですね。しかも静岡県は原発依存率が1割でしょう、中部電力は。東電は4割、5割、関電も5割です、四国も5割です、九州も5割です。背に腹はかえられないんですよ。動かさなければ電気代を上げなくちゃいけない。いや、電気を供給できない。だけどうちは1割ですから、エネルギーの地産地消を強める。そして実際に数年間浜岡原発を動かさないで済ませたじゃありませんか。しかし3,000億も投じました。それが電気代に跳ね返ってこないとも限りません。跳ね返ってくる可能性が出てきているわけですね。そうした中で技術を上げて、370万キロワット分の送電線がありますから、あんなものを今からつくるとなると大変ですよ。それを活用する方法も考えなくちゃいけない。

だから災いを転じて福となす方法を一緒に考える。イデオロギーではありません。これは現実なんです。その安全なものを安全にするために、明確にだれでも言える方法、例えば福島第1原発は、1号機から3号機はメルトダウンしました。あそこはどこの会社のものか御存知ですか。あれは東芝です。あれと同じものが今浜岡にある。1号機、2号機は1978年以前につくられたものです。したがって耐震性に問題があるので廃炉が決まっています。同じスタイルですよ。

ですから私はみんなが公然といる中で、中部電力の原子力担当の方が副社長です。あなたは今1号機、2号機、3号機の福島、あそこでメルトダウンでこれから廃炉で処分しなくちゃいかなくちやいかん。そこでうちの1号機、2号機は同じ機種だと、東芝でつくったものだと。あそこを貸してあげたらどうか、廃炉にするための模擬施設として。そしてみんなの前でそういう人道的なことはぜひやらしていただきたいというふうに言っています。いきなり危険なところでやるのでなくて、ものすごく大きな施設ですから、順番にどういうふうになっているのかということを経験者が安全なところで学んでいくという形でもできるんですよ。ですからあそこをどのように活用することを通して、世の中のためになるかということを考えております。それは私の考えです。

それから傍聴者4様は先生ですか。

<傍聴者4>

元です。

<県知事>

いかにもそういう感じですね。御立派な人格者と承りました。行政は、やっぱり文科省というのは、大体そうですね、課長補佐あたりだと40前後ですよ。大先生、総長先生とか学部長先生とか、文部科学省に行って、文部行政の専門家に何とかこういう形でこういう研究したいので予算をつけていただきたいとか、あるいはこういう研究所をつくりたいので何かお願いできないかとか、それに対して全体を見渡しながら文部科学省の行政マンは答えるんですよ。

文部科学省の行政をしている人たちは、日本の中央政府の中でだれ1人大学教授なんかいません。政策研究大学院大学というそこには大体文科省の出身の方が半分ぐらいいるんじゃないでしょうか。それをおきますと、文部科学省の専門家と、行政の専門家と、大学で物理学を教える、日本文学を教える、あるいは学校で歴史を、社会を、理科を教える。違うんです。

そして現場を知っているか、現場を知ったことのある人たちが行政をすればいい。文部科学省の行政マンは現場をどの程度知ってますか。皆様方は小学校、中学校について現場を踏んでない人いませんか。みんな小学校、中学校行っているじゃないですか。今はこの時代ですと、平成になりまして、2人に1人は大学に行ったんです。ということは、親御さんのうち2人に1人は大学の出身者なんですよ。だから親御さんと学校の先生の学歴も変わらないわけです。

新しい先生になられた方が20代前半だと。中学のお子様をお持ちの方は30代、40代でしょう。自分よりも年下の学歴も変わらない人で頼りない先生だと思ったら、いろいろきついことも言うでしょう。ですから、先生の学歴もそう高くありません。そして我々は教育の現場を踏んで大人になっていますから、ですから小学校の宿題ぐらいはお父さん、お母さん見ることができるでしょう。

私は学長もしました、教えていました。だから全国の大学見てください。学部長は少なくとも全部教えていますよ。中には総長になっている人は、ほとんど教えています。それ

が教育者です。

ですから、教育行政のプロをつくらないといけない。教育行政のプロは文科省にいるからそこから呼んできました。

ちなみに初めから教育委員会は5人ですけれども、教育長を除いて、教育委員会事務局というのがあります。その事務局で学校の先生をやられた方が260人ぐらいいらっしゃる。6割ぐらいいらっしゃるんです。それ以外に本当に教育事務をしている方たちがいます。教育事務している人、私がそういう教育事務をしていると、こちらが学校先生あがりです事務に来られたと。そうするとこの先生に対して私は何となく下から仕えるという形になっちゃうんですよ。先生の方が偉い。ところが先生は仕事をトラバークしたので全然違うんです、やっていることが。ですから私は教育行政のプロはプロとして養成する。先生は現場で頑張ってください。これが基本的な私の考えです。

これはただし押しつけることはできない。これは私の考えだと申し上げます。そして今、日本は総合教育会議というのをつくられて、先生のような方だとか、あるいはこういうスポーツマンだとか、農業者だとか、すべての人に入っていて、たった5人じゃありません。名誉職じゃありません。本当に社会の子供たちをいろんなレベルで育てているような人たちを通して、子供たちのいろんな力をスポーツだ、農業だ、あるいは国語だ、算数だ、音楽、美術と何でもよろしい。それぞれの能力をそれぞれのプロによって上げていこうと、そういう方向に思い切りギアチェンジをしたいというふうに思っているところ、それを国が法律で今度定められたわけですね。ですから僕は彼らが静岡県の実例をしたと、本当にそう思っています。

第1次安倍内閣のときの教育再生会議、私は高等教育会議の座長だったんです。ですからもう何をしたらいいか全部知っています。この間、文部科学省の事務次官に会いに行きました。覚えてないと思って、「よろしくお願いします」「何言ってるんです、先生、僕はあんなとき室長だったんですよ」なんて言ってね。「今先生の言われたこと一生懸命実行しているんですが、なかなかうまくいかなくて」「じゃ私の方はやりますから、それでいいですね」「大いにやってください」と、そういう関係ですからね、自信を持って、国は大き過ぎる、しかしうちは370万しかいないでしょう。ここは3万人ぐらいしかいないじゃないですか。2万9,000人ぐらいでしょう。3万、さすが3万の大台に乗せましたか、さすがですね、名物町長さん。そんなわけで、人口もそれなりに反転をしつつあると。子供たちをしっかりと育てていくということのために一緒にやろう。これは必ず見習いますよ、ほかのところも。

ですから、私は幸か不幸か、先輩がここにいません。あるいは自分の身内がだれかに世話になったという人がいません。言い換えますと、どなたに対しても遠慮する必要がない。正しいことだけを言って、それを試していただく、そしてたたいていただく、それでやっていくと。そういう立場でやっておりますので、どこに対しても処事光明にしていく。すべてを公にして議論をして正しいことをしていくということで、今は子供たちの立場に立てばどうしたらいいか。せつかく免許を取られている先生は現場に戻ってくださいということ声を大にして言っている次第です。以上です。